

ブロイアー／フロイト 『ヒステリー研究』 と 19世紀の女性たち



アンナ・O嬢は発病時（1880年）、21歳。…ひじょうにすぐれた知能、驚くほど鋭敏な総合判断力、そして鋭敏な直感力をそなえる。彼女のたくましい知性は、確固たる精神的滋養も消化しえただろうし、またそうした滋養を必要としてもいたが、学校を出たあとはその機会には恵まれなかった。彼女には豊かな詩的才能、空想的才能がそなわるとともに、ひじょうに鋭い批判的悟性によって自らを律する面があった。

ブロイアー「観察1、アンナ・O嬢」

ブロイアーとフロイトの共著『ヒステリー研究』（1895年）を手がかりとし、同時代の文学作品にも言及しながら、19世紀ヨーロッパのジェンダーについて考える。

講師
金関猛（岡山大学文学部教授）

日時：11月22日（金）17:30～19:00

場所：法学部会議室（文法経2号館2階）

一般の方の来聴歓迎いたします。

問合せ先
saito@okayama-u.ac.jp
（文学部、齋藤圭介）